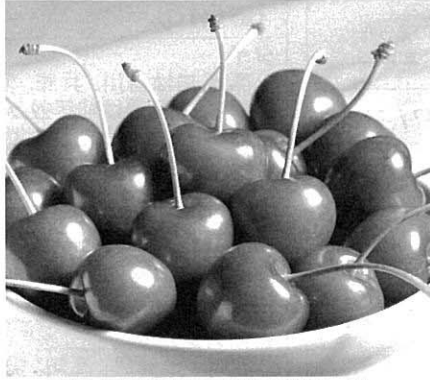


加州産チェリー

4年ぶりの安定供給へ

ロイヤル輸入解禁30周年をPR

今季の米カリフォルニア産チェリーが、豊作になりそうだが、冬の降水量が多く、休眠時間も十分に確保できたため、各産地で良好な着果状態という。さらに主力のピンク種は、5月末から6月初めの最需要期に増量するとみられ、販売面でも好環境が整



輸入解禁30周年の加州産チェリー

う見通し。青果輸入商社の(株)ロイヤル(本社・京都市)は、カリフォルニア産チェリーの輸入解禁30周年を前面に打ち出して、売場確保につなげる方針だ。過去3シーズンは、降雨の影響で生産量が減少したり、干ばつによる生育の前進化で最需要期に供給量が減るなど悪条件が重なった。このため日本への入荷量は、30万カートン前後と12〜13年シーズンの半分以下という少ない水準で推移した。今季は気象条件に恵まれ、トゥワール種以外の各品種で平年より多めの生産量になる見込み。今月14日から21日にかけて現地を視察したロイヤルの上田豊人執行役員によ

ると、「近年で最もコン

ディションが良く、木とつぼみが健康的だった」という。カリフォルニアチェリー協会では、今季の生産量を前年比6割増の84.5万カートンと予想しているが、「大半の主力パッカーはさらに増加する

とみている」(上田執行役員)。今後の天候や選果能力にも左右されるが、今季の作柄であれば950万カートン程度まで増える可能性もあるようだ。日本への初荷は今週末に到着する予定。早生種は来月10日から23日、主力のピンク種は来月23日から6月5日にかけて日本到着ピークを迎える見込み。

ここ数年、カリフォルニア産チェリーは、需要と供給がかみ合わず、売場が他品目に奪われる事態を招いた。「依然として消費者から支持されている人気商材。4年ぶりに安定供給できそうなので、積極的な売場づくりを提案したい」(上田執行役員)。ロイヤルでは、カリフォルニア産チェリー輸入解禁30周年を記念して独自POPを作成するほか、昨年から実施しているキウイフルーツとのコラボレシビを店頭で紹介し、取引先の販売をサポートしていく。